



元気っ子

No.273 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

5月を迎えました。本来であればGWに突入し、帰省や旅行といった明るい話題があちこちから聞こえてくるはずですが、今年に限っては完全自粛モードのGWとなってしまいました。

ご存知の通り、鈴鹿市では学校の臨時休校が5月31日まで延長され、それに伴って、保育園でも「登園自粛要請」が5月31日まで延長されました。ながさわ保育園においては登園自粛が可能な職に就いておられる保護者の方々にご協力頂いているおかげで、現在、全園児の約35%の子どもたちが登園を見合わせてくれています。ご家庭での保育においては、公園や商業施設が閉鎖されるなどなかなか外出等も難しい状況の中で日々お過ごしのことかと思えます。「ステイホーム」の文字があちこちで見られますが、子どもにとって家の中でおとなしく過ごすことは苦痛でしかないでしょう。幸い、この地域は自然や車のあまり通らない道など外の空気を吸える場所が豊富にあります。是非、そういった場所を有効活用して頂きたく思います。普段なかなか親子で散歩などに出られないご家庭にこそ、この環境を最大限利用して上手にストレスを発散して頂きたく思います。また、保育園からは、登園自粛にご協力頂いております保護者の皆様に向けて、家庭保育の一助になるアイデア等を発信させて頂くつもりであります。是非ご活用頂ければと思います。

それにしても、政府の掲げる「人と人との接触を8割減らす」ということがこれほど難しいことなのかと痛感させられます。様々な業界でテレワークなど、接触を減らす工夫は進んでいるのですが、それでもなかなかこの目標値には届きません。そうなれば今のような自粛生活がだらだらと長期化することは避けられないでしょうし、また長期化すればするほど、社会は元通りにはいかなくなります。

この新型コロナウイルス感染拡大が収束する頃には世の中が様変わりしているだろうと言われていきます。人工知能(AI)の進歩も手伝って、中には消滅してしまう職業もあるかもしれません。そんな未来、世の中を生きていくのは今の子どもたちです。知識の詰め込みでは絶対に人工知能にはかないません。そうなったときに問われるのは「人間力がいかに鍛えられているか」だと思います。多様化する社会の中でいかに人間関係を築けるか、そこが問われる社会になっていくだろうと思います。

自粛モード一色で、様々な活動が制限される中ではありますが、この危機を逆に「好機」と捉えてみて下さい。時間をひたすら自由に使える経験は貴重です。普段できないようなこと、子どもたちが興味、関心のあることにとことん付き合ってみて下さい。家庭での役割分担やお手伝いを経験することも良いと思います。今、こんな状況だからこそ出来ることを今一度考えてみてはいかがでしょうか。

